

学校だより

学習規律確立の時

補習校小・中学部は日本国内の小・中学校同様、文部科学省から無償配布される教科書を使って授業を行います。幼稚園や高等学校は、学習指導要領に準じて、本校でカリキュラムを組み、授業を行っています。

本校は、子どもたちが、現地校の夏休み期間中に日本の幼稚園や小・中学校で、体験入園や体験入学をした際に、学習面、生活面それぞれで適応した学校生活を送れること、また、帰国した際には、日本の学校教育や日常生活にすぐに適応できることを目的の一つとして計画的に教育活動を行っています。

園児・児童・生徒それぞれが異なる通学目的の中、4月は、各学級において、子どもたち自身や先生がいろいろなきまりを決めた上で、子どもたちに守らせていくという、いわばルールの徹底を図っていく大切な月にあたります。

小学部1年B組では、係の2人が教室の前の方に出てきて、学級のお友だちに授業を始めるにあたっての“あいさつ”の声かけをしていました。慣れないので、繰り返



【今から5時間目の勉強をはじめます。】

しながら言葉やタイミングを覚えていきました。

新入学の子どもたちの様子を見たあと、4年生の教室を訪問すると、さすがにお兄さん、お姉さんだと感心しました。



【小4・国語科】

随分と落ち着いた雰囲気の中で学習が進められていました。先生から出された指示に対する動きは素早く、背筋が伸びて授業中の姿勢がとて

ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

14925 Memorial Drive, Bldg A, Suite 130, Houston, Texas 77079

Tel. 281-493-1512 / Fax. 281-531-6730 (事務局 火~金曜日)

Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@airmail.net Home Page: www.jeihouston.org

も良いように感じました。

小学部3年生の様子を見に行くと、ノートを利用して新出漢字を習っていました。部首や画数、筆順



を確認しながらの学習です。学年が上がるにつれ、新出漢字が多くなります。

3年生は話し言葉から書き言葉の学習移行期にあたります。

急に漢字がむ

ずかしいなあと感じる人、覚えるのがおっくうになりかけている人、また、日本語より英語を使った方がコミュニケーションがとりやすいという低・中学年の人が、もしいた場合は、何とか、親子で一踏ん張りして日本語力を維持、向上させてほしいと願っています。この3年生の学級でも、今年1年間の学習のルールを教わりながら授業が進んでいました。

学校生活全般における注意を再確認する時

これまでに補習校の生活を経験している人は、節目となるこの時期に、再度、児童・生徒心得を確認しておかなければなりません。新入園入学生や転入生のお手本になってほしいと思います。

全学級で、校舎や今月末から使用するカフェテリアの使用上の注意をはじめ、学校生活全般における注意を行ったことでしょうか。安全で楽しい補習校生活を送るためには、一人ひとりが「きまりを守って生活していこう。」という強い自覚が必要です。

幼稚園の子どもたちは、先生やボランティアのお姉さんに手をつないでもらいながら、学校探検をしていました。2階まで来ることは、これから先、ほとんどありませんが、上



の学年の人たちが一生懸命に勉強している様子を見て回りました。どこへ行っても初めて見る物ばかりで興味津々であったにちがいません。幼い心に何が一番印象に残ったのでしょうか。今年も必ず幼稚園に顔を出して、子どもたちと一緒に遊びを通して勉強したいと思っています。

6校時に不審者が侵入したことを想定して、避難訓練を実施しました。昨年までは、6月に行っていましたが、「学校生活のきまりを確認する時」との認識から4月12日に繰り上げました。

緊急放送のあと、子どもたちは教室の電気を消し、施錠して、教室の出入り口の窓から見えないところに姿を隠し、声を出さずに次の指示を待ちました。

緊急事態解除の放送のあと、Yorkchester 通り沿いの松林に集合しました。



担任の先生から、教室から外に出るまでは、「押さない、走らない、しゃべらない」また、「もどらない」の「お・は・し・も」を事前に教えられていたはずですが、また、校舎から出ると走って集合することも約束事の一つでした。

訓練の結果は、残念ながらいくつかの課題が残り、Spring Branch ISD 警察のチャック署長から、厳しい評価をいただきました。彼は毎週土曜日、日本人の子どもたちを柔和な表情で見守ってくれていますが、さすがにこの時ばかりは、厳しい表情ではっきりとダメだしをしてくれました。きちんとした評価をしてくれたことに大変感謝しています。

その後、松林から各教室まで、口を開けずに、担任の先生の指示に従って戻って行きました。

現地校では有事、天災など、いろいろな場面を想定して厳しい訓練が数回行われると聞いています。日本語が自由に使え、少くくは・・・という甘い考えの人は、まさに「学校生活全般における注意を再確認する時」ではないでしょうか。

子どもたちが成果を出すことができなかった今回の現状を踏まえ、私たち教職員がしっかりと反省を行い、次回は、より緊張感をもって取り組ませなければなりません。再度、避難訓練を実施します。

「ひ・も・と」を大切に (2)

学校日より第83号と、始業式で小2から上の学年には「ひ・も・と」を大切にして生活してほしいことを書いたり言ったりしましたが、今回はそれらの続きになります。

前回(1)は、忘れ物の多さから「も」=物を大切にすることを先に書きました。“物を大切にできる人は人も大切にできる人ではないだろうか。”と書いたことも以前書いたように思います。

今回は、「ひ」=人を大切にすることを書きます。

子どもたちの中には、現地校に通う中で受けるストレスが大きいと、補習校の生活が楽しくて楽しくてしょうがない人がたくさんいることでしょうか。音楽やスポーツなど同じ趣味を持つ人同士が集まったり、なぜか波長が合い、いつの間にか気のおけない付き合いになっていたりする人たちが集まっているのではないのでしょうか。お父さん、お母さん同士が仲がいいので、子ども同士も仲がいい場合もあるでしょう。補習校に通う子どもたちの共通点は、「日本語の補習をする」という目的です。同じ目的を持った人たちが集まっているだけに、諍(いさか)いがない土曜日一日を送ってほしいと思います。

新しい学級になったばかりで、まだ話をしたことがないという人がたくさんいることでしょうかね。小2の中村もりさんが歓迎の言葉で言っていました。

「いっしょにあそぼ。」一声かけ合うことで友だちの輪が広がっていくことでしょうか。縁あって、ヒューストンで同級生として、また、同じ屋根の下で学んでいます。楽しい思い出がたくさんできる補習校であってほしいと願います。引き続き、次号は人に関係する、不思議な「縁」について書く予定です。

◆パトロール当番予定表 4月26日◆

～よろしくお願ひします～

	学年	順位	児童生徒氏名
★AM1 リーダー	小3	39	岩本 紗英
2		40	寺田 裕
3		41	原 慶洋郎
4	小4	1	尾崎 友哉
5		2	川瀬 直輝
6		3	ネブギン 健太

一午後の当番の集合時刻は12時10分ですー

★PM1 リーダー	小4	4	本多 怜
2		5	松浦 祐一郎
3		6	松木 峻
4		7	若田 晶雄
5		8	川原 理菜
6		9	上原 仁